



倉本一宏 [編]

説話研究を拓く 説話文学と歴史史料の間に

2019年 3月刊行

定価: 本体9,000円(税別)

▶ A5判・452頁 ISBN978-4-7842-1967-4

説話とは何か?

まったくの創作でもなく古記録でもない、このつかみどころのない作品たちはなぜ生まれ、いかに編纂され、そして伝えられたのか?

日本史学や日本文学、宗教学、文化史学の研究者が一堂に集い、「説話」という文学ジャンルを解明すべく企図された、国際日本文化研究センター共同研究の成果。

説話文学と歴史史料の間を往還しつつ、説話研究に新たな地平を拓く。

《内容目次》

第一部 説話と歴史史料

歴史叙述としての説話
文学の側から読んだ公家日記 — 『明月記』の月
『弘安源氏論義』をめぐる故実と物語
京洛の境界線
— 文学・古記録における平安京の内外認識
高麗文宗が求めた医師
小峯和明
池上洵一
前田雅之
龔 婷
榎本 涉

第二部 説話の生成

「コノ話ハ蓋シ小右記ニ出シナラン」考
— 『小右記』と説話との間に
古今著聞集と文体 — 漢字文の混入と諸相
紅梅殿の壺と編纂 — 説話集を中心として
源隆国の才と説話集作者の資質をめぐる検証
— 研究史再考をかねて
『宇治拾遺物語』の吉野地震伝承
— 大己貴命にさかのぼる
“和歌説話” 覚書
足利安王・春王の日光山逃避伝説の生成過程
新しい世界の神話 — 中世の始まり
倉本一宏
野本東生
藤本孝一
荒木 浩
保立道久
中村康夫
呉座勇一
古橋信孝

特集 説話の国際性

日本とベトナムの十二支の違い
グエン・ヴァー・クイン・ニュー
丁部領王の説話とベトナムのホアルー祭 ゴ・フォン・ラン
『三国遺事』と『日本霊異記』の観音説話について 宋 浣範
ベトナムの『禅苑集英』における夢について
グエン・ティ・オワイン
占城王妃の叙述をめぐる
— 『越旬幽霊集録』および『大越史記全書』から
佐野愛子

第三部 内在する歴史意識

称徳天皇と道鏡 — 『古事談』巻一巻頭話考
『長谷寺験記』編纂と下巻三十話の役割
『拾遺往生伝』の歴史意識と文学意識
中世における説話集編者の歴史認識
— 『古事談』と『古今著聞集』
「宝剣説話」を耕す — 公武合体論の深層
戦国期の説話集『塵塚物語』
歴史文学と多重所屬者
— 慈光寺本『承久記』における三浦胤義について
変貌する新田氏表象
— 「足利庶流」(足利一門) と「源家嫡流」(非足利一門) の間に
鳶尾和宏
内田滯子
川上知里
松園 斉
関 幸彦
五味文彦
樋口大祐
谷口雄太

第四部 説話の変容

日記と説話文学 — 円融院大井川御幸の場合
武内宿禰伝承の展開
— 武内宿禰神格化の様相を中心に
『発心集』蓮華城入水説話をめぐって
ヤマトタケル研究の新しい可能性
— 同性愛と性別越境の比較をめぐる
『夷堅志』のシラミと『古今著聞集』のシラミ
新しく作られる歴史と神話
伊東玉美
追塩千尋
木下華子
井上章一
渡辺精一
魯 成煥

説話・史料名索引

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-533-6860 fax. 075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	説話研究を拓く 説話文学と歴史史料の間に 本体9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1967-4			
お名前		tel		本書HPのQRコード	
ご住所	〒	e-mail			
送本方法	代引 (書籍代+消費税+送料600円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				



日記・古記録の世界

倉本一宏編

日本の日記・古記録を題材として、日本史学、日本文学など関連分野の第一線の研究者がそれぞれの視点からその本質に迫った論文集。日記とは何か、古記録とは何か、それらを記録することの意味、記主や伝来をめぐる諸問題、さらには古代・中世における使われ方など、単に日記・古記録を利用するだけにとどまらない意欲作35論考を収録。

▶A5判・792頁／本体12,500円 ISBN978-4-7842-1794-6

藤原道長事典 御堂関白記からみる貴族社会

大津透・池田尚隆編

『御堂関白記全註釈』（全16冊）の成果をふまえ、藤原道長(966-1027)が生き、見ていた貴族社会のあり方を「政務・儀礼」「風俗・信仰」など11のテーマに分け、事典の形をとって具体的に明らかにする。最新の研究成果にもとづいた新たな平安朝の貴族社会像を提示し、各ブロック冒頭には、専門の執筆者による詳細な解説を収録。

▶A5判・462頁／本体6,000円 ISBN978-4-7842-1873-8

『御堂関白記』の研究

倉本一宏著

藤原道長の日記『御堂関白記』について、長年先駆的な研究を深めてきた著者による、論文(新作を含む)からエッセイまでを蒐めたアンソロジー。古記録研究そのものや撰関政治論や王朝文化論にも資する。

【内容】Ⅰ自筆本『御堂関白記』をめぐる／Ⅱ『御堂関白記』の書写／Ⅲ『御堂関白記』の内容／Ⅳ『御堂関白記』雑感

▶A5判・388頁／本体8,000円 ISBN978-4-7842-1957-5

平家物語生成考

浜畑圭吾著

平家物語諸本の比較を通して独自の表現や記事、改変された部分をあぶり出してその基盤を追究し、物語生成の動機や場、背景を考察する。

【内容】Ⅰ延慶本平家物語と『宝物集』／Ⅱ長門本平家物語の展開基盤／Ⅲ南都異本平家物語と熊野三山―「維盛熊野参詣物語」をめぐる―／Ⅳ『源平盛衰記』と地蔵信仰／Ⅴ「共通祖本」の生成基盤

▶A5判・320頁／本体7,000円 ISBN978-4-7842-1769-4

怨霊・怪異・伊勢神宮

山田雄司著

古代・中世社会で大きな意味をもち、社会の底流で歴史を動かしてきた怨霊・怪異。早良親王・菅原道真・崇徳院などの怨霊や、様々に記録・伝承される怪異など、その諸相を歴史的に跡づける。さらには親鸞や伊勢神宮といった、神と仏をめぐる領域をも射程に入れて集大成する。

▶A5判・448頁／本体7,000円 ISBN978-4-7842-1747-2

平安時代陰陽道史研究

山下克明著

平安時代を中心に、仏教・神祇信仰と並ぶ宗教としての陰陽道のあり方、陰陽師たちの天文観測技術や呪術・祭祀など活動の実態とその浸透、彼らの信仰などをさまざまな角度から明らかにする。

【内容】Ⅰ陰陽道の成立とその展開／Ⅱ安倍晴明と天文家安倍氏／Ⅲ陰陽道と文献史料／Ⅳ宣明暦について 『高麗史』暦志と日本の伝本

▶A5判・460頁／本体8,500円 ISBN978-4-7842-1780-9

平安期の願文と仏教的世界観

工藤美和子著

【オンデマンド版】

願文自体が何を語ろうとしているのか分析することで、人々の仏教理解や具体的信仰のあり方、所属する社会集団内部でのそれぞれの構成員が果たした公共的な役割、寺院や僧侶と世俗社会との関わり方、具体的な宗教的実践のあり方を明らかにする。

▶A5判・368頁／本体7,400円 ISBN978-4-7842-7014-9

源平の時代を視る

磯水絵・小井土守敏・小山聡子編

二松学舎大学学術叢書

二松学舎大学附属図書館に収蔵される貴重資料、奈良絵本『保元物語』『平治物語』の公開促進をはかり、2011年度、同大学東アジア学術総合研究所で共同プロジェクト「二松学舎大学附属図書館蔵 奈良絵本『保元物語』『平治物語』の翻刻と研究」が発足された。その研究の軌跡と成果をまとめた論集。

▶A5判・278頁／本体4,800円 ISBN978-4-7842-1735-9

日本的時空間観の形成

吉川真司・倉本一宏編

日本における古典的・伝統的な時空間観はいつ、どのように形成されたのであろうか。古代から中世にかけての日本的時空間観の形成・定着のプロセスを具体的かつ実証的に明らかにする。

【内容】Ⅰ古代の時間と空間／Ⅱ古代から中世へ／Ⅲアジアという視座

▶A5判・608頁／本体12,500円 ISBN978-4-7842-1892-9

栄花物語・大鏡の研究

山中裕著

『栄花物語』に内包される歴史書としての特徴を考究し、かつ『大鏡』の歴史的意義についても論究。従来からの歴史物語という分野に収まりきれない可能性を提示する。

【内容】世継および世継物語／『栄花物語』の編纂／『栄花物語』の歴史と文学／『栄花物語』と王朝政治／『大鏡』の歴史的意義 他

▶A5判・404頁／本体7,200円 ISBN978-4-7842-1640-6

今昔物語集の人々 平安京篇

中村修也著

虚実ないまぜ話柄の豊富な説話文学の古典から平安京という都市で生きる人々のさまざまな姿を活写。

【内容】Ⅰ都人の楽しみは神社詣で／Ⅱ不思議な力の商人たち／Ⅲ盗賊団の跋扈する都／Ⅳ平安京の冥界と霊力／Ⅴ都に生まれた芸術家／Ⅵ昔も変わらぬ食生活

▶A5判・220頁／本体2,300円 ISBN978-4-7842-1213-2

神話・伝承学への招待

斎藤英喜編

これまで別々のジャンルで扱われてきた「神話」と「伝説」「昔話」について、総合的・学問的に研究する「神話・伝承学」。11の章と7つのコラムにより「神話・伝承学」の世界へいざなう、格好の入門書。

【内容】「神話・伝承学」とはなにか／『古事記』、神々の世界を読む／日本神話とシャーマニズム／もうひとつの「古代神話」他

▶A5判・266頁／本体2,300円 ISBN978-4-7842-1813-4

幽霊の歴史文化学

小山聡子・松本健太郎編

二松学舎大学学術叢書

人びとは幽霊をどう感知し、それを表象するためにいかなる工夫をしてきたのか、幽霊になにを求めたのか。さまざまな研究分野から日本人の精神世界の一部に迫る。

【内容】幽霊の存在論 それはどう生起するのか／幽霊の表現論それはどう描かれるのか／幽霊の空間論 それはどこに出没するのか

▶四六判・344頁／本体2,500円 ISBN978-4-7842-1964-3

崇徳院怨霊の研究 【オンデマンド版】

山田雄司著

日本史の方面からはほとんど研究されてこなかった崇徳院怨霊を時代背景の中で位置づけ、日本史上最大の怨霊とされる崇徳院怨霊が「いつ」「誰によって」「いかなる状況下で」語られるようになったのか、そして崇徳院怨霊の跳梁を記す『保元物語』がいかにしてまとめ上げられていったのかを、細部にわたって検討することにより解明する。

▶A5判・318頁／本体6,400円 ISBN978-4-7842-7005-7

賢者の王国 愚者の浄土 日本中世誓願の系譜

工藤美和子著

「賢者」(知識と財力で人々を悟りへ導こうとした有力者たち)と「愚者」(人は仏の誓願の力によってしか救われなかった法然とその周辺)がそれぞれに構想していった理想世界を、彼らの誓いの言葉を通して追うことで、日本浄土思想史に新たな知見を示す。

▶A5判・280頁／本体6,500円 ISBN978-4-7842-1958-2

日本文学とその周辺

大取一馬編

龍谷大学仏教文化研究叢書

龍谷大学仏教文化研究所の研究者陣による指定研究、「龍谷大学図書館蔵中世歌書の研究」(平成23~25年度)において問題になった諸点や、温めてきた問題の論文を三部構成にまとめた一書。時代や分野が異なった専門領域をもつ各研究員により、研究テーマの和歌文学にとどまらず、多岐にわたる内容の論文を収録。

▶A5判・626頁／本体8,400円 ISBN978-4-7842-1771-7

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。 ※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。